

# 癌化学療法輸液約束処方 胃22

癌種 胃癌 再発・切除不能 (通院外来用)  
 レジメン名 胃22 XELOX

周術期投与期間要注意

薬品名 (商品名)	一般名	略号	標準投与量	投与方法	投与経路	投与日	1コースの期間
エルプラット	オキザリプラチン	L-OHP	130mg/m <sup>2</sup>	120min	末梢	DAY 1	21日間
カペシタビン	カペシタビン	CAP	1日用量 2000mg /m <sup>2</sup>	分2 朝夕食後	PO	DAY 1(夕)~15(朝) または DAY1(朝)~14(夕)	

※実施決定後より内服開始

## DAY 1

### 【末梢】

- ① 5% TZ 50ml + デキサート 1V / 5分
- ② 5% TZ 50ml + グラニセトロン 1A / 5分
- ③ 5% TZ 500 ml + エルプラット mg / 120分
- ④ 5% TZ 50ml / 5分

### 【備考】

①切除不能・再発胃癌に対して XELOX療法とSOX療法の第Ⅱ相試験が韓国にて行われ、同等の治療成績が報告されている。  
 (L-OHPの投与量はどちらも 130mg/m<sup>2</sup>)

②術後補助化学療法は8コース目まで

#### 【投与開始基準】

- ①好中球: 1500/mm<sup>3</sup>以上
- ②血小板: 7.5万/mm<sup>3</sup>以上
- ③38℃以上の発熱を認めない
- ④感覚性神経障害: G2以下
- ⑤非血液毒性: G1以下

#### 【L-OHPの減量基準】

- ①好中球: 1000/mm<sup>3</sup>未満
- ②血小板: 5万/mm<sup>3</sup>未満
- ③発熱性好中球減少症: G3 以上
- ④非血液毒性: G3以上
- ⑤感覚神経障害: コースを超えて継続するG2  
7日以上継続するG3  
(コースを超えて継続するG3の場合は中止)

#### 【カペシタビンの減量基準】

- 好中球 1000未満  
 血小板数 5万未満  
 発熱性好中球減少症: G3 以上  
 HFS G2 以上  
 (G1に回復するまで休薬し、減量して投与開始)

H27.2.19作成  
 R5.9.11改訂